

2021年2月1日

2年B組 市原 和樹

新進気鋭のHipHopユニット Dos Monos

○目次

- 1、Dos Monos結成・メンバー紹介
- 2、DeathBomb Arc
- 3、Dos Monosの魅力
- 4、Dos Monosのリリック
- 5、莊子it作るビート
- 6、アルバム・シングル
- 7、まとめ

Dos Monos結成

Dos Monosは、2015年に中高時代の同級生3人で組んだHipHop ユニットです。

まず、それぞれのメンバーを紹介していきます。

○莊子it

トラックメーカー・MC担当。1993年生まれ。元々は映画監督を志望していて、日芸（日本大学芸術学部・大学院芸術学研究科の略）で映画作りを学んでいたが周りの学生達と映画を作る上で方向性が合わず、妥協するなら作らない方がマシと、本来趣味であった音楽に方向をシフトしていった。Dos Monos の曲のビートは彼が全て作っています。MCネームの由来は、中国の思想家、莊子に英語のshitを掛け合わせたもので、その文字の組み合わせの通りコンシャスとナンセンスの間を志向するという意味合いがあるそうです。また映画や本、音楽などの知識量が凄く、哲学や思想にも精通しています。個人の仕事では、その知識量を発揮しラッパーとしては、珍しくゲンロンカフェという東浩紀や津田大輔など非評家、哲学者などが集まって議論するニコニコ生放送の放送にも何度か出演しています。またトラック提供や映画批評など幅広く行なっています。好きな映画監督、ゴダール

○TaiTan

MC担当。1993年生まれ。学生時代は、演劇を学んでいた。MCネームの由来は、お笑い芸人の爆笑問題が好きで、その爆笑問題の所属事務所、タイタンからきたものです。また本名は、飯塚政博と言うのですが、普段は、株式会社GOという会社で、コピーライターとしても働いています。コピーライターとしては、2018年にケンドリック・ラマーがフジロックの為来日した際に当時、日本で問題になってた、行政機関が公開した黒く塗られた公文書にケンドリック・ラマーのアルバムタイトル「DAMN.」を重ね大変物議を醸し注目を浴びました。

○没

MC・DJ担当。1993年生まれ。サン・ラが好きで、カリフォルニア大学ロサンゼルス校に留学していた事がある。

この3人の出会いは中学時代で、当時は、それぞれがバンド活動をしていて、莊子itはギターTAITAN は、ドラマーでこの2人は、同じバンドをやっていて、没は、他のパンクバンドで、ドラムを叩いていたそうです。その後2015年に、個人でトラックを作りためていた莊子itの呼びかけで再び集結し、Dos Monosを結成したそうです。

<出れんの！？ サマソニ！？ 2017>において応募総数3600組を勝ち抜き、<SUMMER SONIC2017>に出演を果たした彼らだが、これまで正規音源・MVは発表してこなかった。

Dos Monosの由来

Dos Monosの由来は、スペイン語でDos（2匹の）Monos（猿）という意味らしいですが、どちらかというと語呂の良さからDos Monosにしたらしいです。また後付けで「進化した猿=人間」という意味もあるそうです。

DeathBomb Arc

Dos Monosの、1stアルバムの「Dos City」は、日本のレーベルからではなく、アメリカ西海岸サンタ・マリアにあるレーベルDeathBomb Arcから出しました。このDeathBomb Arcの主な所属アーティストは、PitchforkのBest New Musicに選ばれたJPEGMAFIAやSF・ファンタジー作品や関連人物に贈られるヒューゴー賞に2年連続ノミネートしたclipping.などがいます。日本人アーティストとして契約したのはDos Monosが史上初です。この所属しているアーティスト達を見ているとわかるようにエッジがあり変わった事をやっている人達が多いです。Dos Monosの音楽的にも、DeathBomb Arcに所属したのは、凄く性にあっていました。

Dos Monosの魅力

Dos Monosの魅力は、なんと言ってもゴーダル映画の様な複雑な引用の数々だと僕は思いました。その例をあげるとRojoというシングル曲では、歌詞の中に浅間山荘やスターリンといった共産主義・共産革命への言及が多くあります。この共産主義にとって赤という色はシンボルカラーとされてきました。そこからこのRojoという曲の象徴的な赤いジャケットができました。またRojoというタイトルは、スペイン語で赤を示していたり、浅間山荘での連合赤軍の立て籠りや現代のコロナ渦によるStay Homeからくる籠城という意味もあります。このようにDos Monosは、作者や一部の人にしか理解できない様な引用の仕方をしていて、そこを楽しむというのも1つの楽しみ方です。しかしそこを抜きにしても単純に音源としてかっこいいと思います。

Dos Monosのリリック

Dos Monosのリリックの特徴として、よく挙げられるのは、莊子itの固有名詞の多さや一見意味の通じない言葉の羅列の様に思えるのが特徴です。これらの意図としては、その固

有名詞の本来持っている文脈から切り離し、違う文脈に逆照射的に、意味を持ってくる事によりズレが生まれその違和感を狙ったものだそうです。結果的にそのズレや固有名詞の多さがキャッチャーさに繋がるのがDos Monosの書くりリックの良さです。自前の、その違和感からくるキャッチャーさを最も表していると思うリリックは、2st アルバムDos Sikiに収録されているThe Rite of Spring Monkeyでの莊子itの一節で、「バスキアに憧れたヘンリーダーガー インナーストリートに引きこもり たかだか縦ノリのフロアでは誰もがイエスマンとうそぶく」という部分なんですが、最初にバスキアやヘンリーダーガーといった濁音の入った言葉を入れることによって音的に重いけどスピード感のあるキャッチャーな言い回しになっています。ちなみにバスキアとヘンリーダーガーというのは、画家の名前で、2人ともしっかりとした絵の教育を受けずして成功した事からストリートと言う事で関連付けられここでは語られています。意味がある様でなく、ない様であるというのがDos Monosの歌詞の魅力です。またこのDos Monosのリリックの書き方は、去年の10月31日に亡くなったMF DOOMの影響を強く感じます。彼がこの様な言葉の羅列やズレを狙ったリリックの書き方の第一人者だと言われています。

莊子itの作るビート

前の文章でも言ったんですが、Dos Monos のビートは莊子itが全て作っています。その莊子itの作るビートの特徴といえば、まずブーンバップである事だと思います。今のHipHopシーンで主流なのは、細かいハイハットの刻みとシンプルさが特徴のトラップ・ビートというものなんですが、このブーンバップというのは重たいキックやベースの音が特徴です。莊子itは、インタビューで、天才ビートメーカーと言われ、無機質なHip Hop のドラムマシンの音に人間らしさを与えたJ DillaやMF DOOMとの共作「Madvillainy」などで有名なMadlibの影響を語っています。また莊子itの作るビートは、ジャズ（フリー・ジャズ）をベースにサンプリングし、コーラージュの様に切り貼りして作られています。このコーラージュの様な作り方によってDos Monos特有のズレのあるビートができます。この手法には、フランスの哲学者ジャック・デリダが作った「脱構築」という概念があります。この「脱構築」というのは、「既存のシステムを解体・破壊し、新たなシステムとして生成・再生」するという考え方で、Dos Monosの昔の偉人達が作った音源をサンプリングし新しいものとして再構築するという作り方と通じるところがあります。

アルバム・シングル

Dos Monosは、アルバム・シングル含めて、7作品出しています。

1stアルバムの「Dos City」は、莊子itが中学時代から作り貯めていた曲を海外レーベルDeathbomb Arcから出したもので、2stアルバムの「Dos Siki」では、広告を出す際にAbleton Liveの制作画面を公開し、その画面だけを見てリミックスしてもらうという異質な宣伝の仕方をしています。またアルバム以外にも台湾のIT担当大臣のオードリー・タンとコラボした曲、「Civil Rap Song ft. Audrey Tang」やイギリスのバンドblack midiの「bmbmbm」をリミックスしDos Monosがラップを載せたりと日本と海外の境がなくコラボしています。Dos Monosは新しい日本のアーティストとしての在り方を提示している様に思えます。ちなみに、自分がDos Monosの中で一番好きな曲は、Fable Nowという曲です。

まとめ

Dos Monosを研究して思ったことは、今の自分では気づいてもいないもっと複雑な引用の数々があり、さらにこのDos Monosというアーティストを知るには、もっと勉強をしないといけないなと思いました。またDos Monosの3人が言っているようにこの様なアーティストがアングラな世界だけで終わるのではなくメインストリームに食い込んで行って評価されればいいなと思います。Dos Monosはこれからの日本の音楽シーンにとって重要な存在であり、ジャック・デリダが言った様に解体と再生をしてくれると思います。